

# 金沢大学における Shibboleth構築とSP実装例

金沢大学総合メディア基盤センター

松平拓也、井町智彦、笠原禎也、高田良宏

## IdP・SPサーバ構成

- IdP用サーバ

CPU : Core2DuoE8400 (3GHz)

メモリ : 2GB

OS : CentOS5.2

アプリ : Apache2.2.3 Tomcat6.0.18 Shibboleth-idp-2.0.0

- SP用サーバ (2台)

1. IdPのVMware上で動作 (OS : CentOS5.2)

「UPKIを用いたファイル送信サービス」

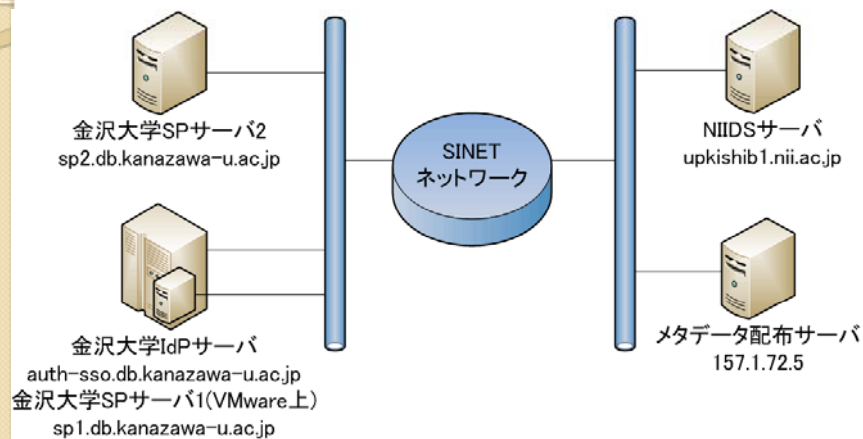
2. CPU : Core2DuoE8400 (3GHz)

メモリ : 2GB

OS : OpenSUSE11.0

「DSpaceによるデジタルコンテンツ公開サービス」

## ネットワーク構成



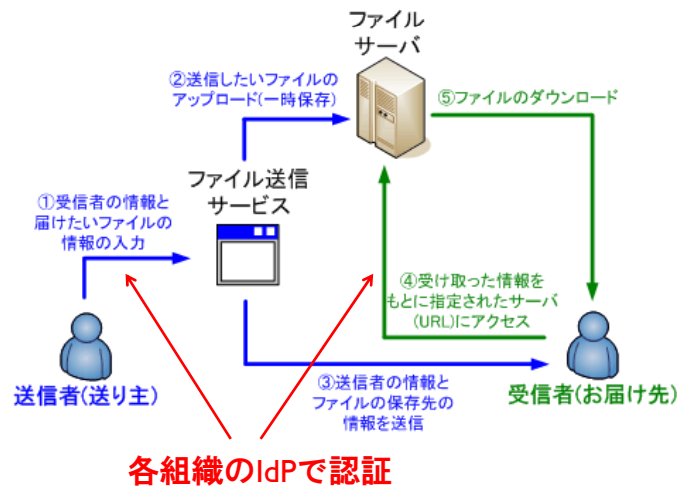
## 金沢大学におけるSP実装例

- **UPKIを用いたファイル送信サービス**
  - メールでは添付できない大容量のファイルを送信したい場合に利用
  - ファイルを一時的にサーバにアップロードし、その情報を送り先に通知し、送り先はサーバにアクセスして受信
- **DSpaceによるデジタルコンテンツ公開サービス**
  - 図書館では取り扱わないような各種デジタルコレクションや実験観測データのリポジトリ化
  - Akebono衛星による地球周辺の電波観測データのスペクトル画像 (PNG)

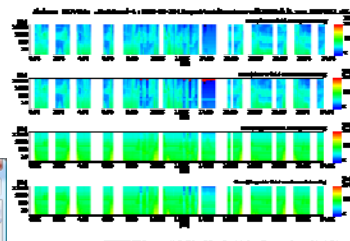
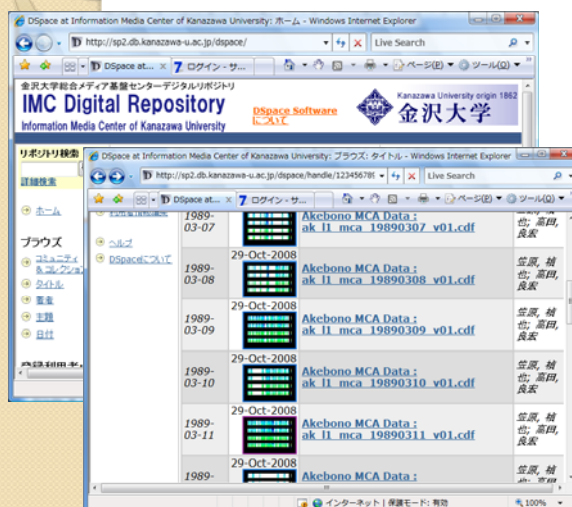
各機関のIdPで認証を受けることによりサービスを利用可能

## SP実装例（１） ファイル送信サービス

<https://sp1.db.kanazawa-u.ac.jp/sendfile/>



## SP実装例（２） DSpaceによるデジタルコンテンツ公開サービス



<https://sp2.db.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>

## UPKIの感想

- 他大学の構成員の身元が判別できる
  - なりすましを回避でき、大学間においてセキュアにサービスを提供できる
- 各大学の足並みをもっと揃える必要
  - IdP、SPがまだあまり普及していないように感じる  
⇒UPKI化により得られるメリットが欲しい
- IdP、SP構築をもう少し簡単に
  - 設定手順書をもう少しわかりやすくして欲しい